

会員の皆様へ

“最初の核惨禍”そして“永遠に平和を希求する”都市、広島で日本放射線影響学会第42回大会を迎えることができることは実行委員会一同、喜びに絶えません。当地では、この秋は、殊の外、学会が多く、10月ないし11月の気候の良い時期に当学会を設定することができず、大変残念に思っております。

今年は、4年に一度の International Congress of Radiation Research (ICRR) 大会の年でもあり、また、その時期と近いため本大会への演題参加数の減少も危ぶまれましたが、幸いにも243題が集まりました。これに、特別企画1, シンポジウム4, ワークショップ6を散りばめて、プログラムを作成し、ここに皆様の手元に要旨集としてお送りできますことに、心から感謝いたしております。

“特別企画”は、20世紀最大ニュース投票で、第1位を占めた“広島・長崎の原爆投下”を、われわれ日本人科学者が、その原点を再確認できるようにとの意図で企画されており、特に若い研究者のご出席を願っています。学会長シンポジウムでは、21世紀における最重要課題の1つである“低線量放射線”に対する反応を、生理的応答との絡みで、分子レベルで議論されます。大会長シンポジウムでは、原爆後障害の中でも白血病は、固型癌と比べて、その発症に特異性があるため、通常の白血病との比較の中で、被爆者白血病の病態や分子異常の特殊性が浮き彫りにされます。シンポジウム3では、固型癌の発症機序を個体・染色体・遺伝子レベルで議論されます。シンポジウム4では、最近、社会的関心が高まっている環境ホルモン毒性、現在でもなお、その汚染が問題となっている水銀毒性、それにチエルノブイリ周辺における放射能汚染等、環境負荷物質研究の現状と将来が議論されます。6つのワークショップでは、それぞれの研究領域での、現時点における知識の集約を行うと共に今後の問題点が探られます。

プログラムには載せておりませんが、折角のご来広を、皆様の記憶に残る学術集会となるよう、“広島らしさ”一酒、もみじ、カープ、お好み焼きなどなどを随所に取り入れてお迎えするつもりでおります。

“まあ、えーけ、広島に来てみんさいや、えーことがあるんじゃけん”

1999年8月

日本放射線影響学会第42回大会

大会長 鎌田七男